

令和 6 年度第 2 回川崎区地域デザイン会議を開催しました

今年度から本格実施となった地域デザイン会議について、川崎区では第 2 回目の会議を次のとおり実施しました。

pp

1 日時

令和 7 年 3 月 8 日(土)13 時 30 分～16 時 45 分

2 場所

川崎区役所 12 階会議室

3 参加者

32 名（無作為抽出した 16 歳以上 65 歳未満の川崎区民約 1,600 人のうち、参加を希望した方等）

参加者の年代：20 代 3 名、30 代 5 名、40 代 7 名、50 代 10 名、60 代 7 名

※事前申込数 44 名、事前欠席 6 名、当日欠席 6 名



4 テーマ：自転車事故防止と防災を考える

川崎区は、地形が平坦なため自転車を利用される方が多く、交通事故全体でも自転車関連事故が多い状況です。また、首都圏における大規模災害のおそれも高まるなか、地震等災害への備えも大切になっています。より効果的な取組などを区民の皆様と一緒に考えるため、自転車事故防止と災害への備えをテーマにしました。

5 内容

自転車事故防止と防災を考えるワークショップ(説明後にグループワーク。※所管課等職員によるテーブルファシリテーション)

① 自転車事故防止

- ・自転車利用に関して危ないと感じたことはありますか？
- ・自転車の交通ルールはなぜ守ってもらうことが難しいと思いますか？
- ・自転車の交通ルールを守ってもらう（自転車による交通事故を減らす）には、どんな方をターゲットにどのような取組を行うとよいと思いますか？

② 防災

- ・今どのような防災備蓄品をご家庭に備えていますか？（備えたいと考えていますか？）
- ・在宅避難をするときにご自身が必要なものはどんなものですか？
- ・「在宅避難」という考え方をどのように PR すると効果的だと思いますか？

6 主な意見

【自転車事故防止】

- 歩道を歩いている時に後ろから走ってきた自転車とぶつかりそうになった。
- 直進してきた自転車が急に方向転換をしてきた。
- そもそもルールを知らない人が多いのではないか。
- 交通ルールの改正が伝わりにくいのではないか。
- ショッピングモールやスーパーマーケットなど、人目の付くところで交通安全キャンペーンを実施する。
- 高齢者向けに病院の待合室でルール説明会を開催する。
- 高齢者向けに病院や選挙投票所でチラシを配布する。
- 保護者をターゲットに、「子どもを事故から守るには？」というテーマで保育園などで定期的にワークショップを開催する。
- 川崎区内においては、30代～50代の事故発生件数が多いため、当該年齢層（働く世代）をターゲットに企業と連携した講習会の実施や、土日祝日にスーパーマーケットやホームセンター、自転車販売店などでルール説明会を開催する。
- 自転車利用者に対して罰則や取締を強化する。
- （ヘルメット着用が努力義務となったため）ヘルメットを購入するための補助金があると良い。
- できるだけ多くの道路に自転車通行帯（自転車専用レーン）が整備されると良い。
- 一時停止付近や徐行する道路では、道路の色分けによる注意喚起を行う。
- 宅配会社や配送会社による自転車利用者について、免許制にしたり、事故を起こしたらペナルティをつける。
- 大人向けの自転車利用教室を開催し、参加すると何らかのポイントやヘルメットがもらえるなど参加者特典があると良い。



- 自転車販売店と連携し、自転車購入者に対して交通ルールや正しい乗り方を案内する。
- 定期的に自転車保有者に対して、自転車ルールの試験などを実施する。

【防災】

- （今すでに家庭に備えている防災備蓄品として）水や食料品、トイレトーパー、簡易トイレなど。
- （在宅避難をするときに自身が必要なものとして）ドライシャンプー、消臭ゴミ袋、発電・充電器など。
- 在宅避難ができるか、避難所に行くべきかの判断基準となるようなチェックリストをつくる。
- 在宅避難の人にも確実に支援物資が行き渡ることを PR する。
- 町内会や企業での防災訓練で、「在宅避難」を周知する。
- 防災の日以外に「在宅避難の日」をつくる。
- 毎月〇日は防災予備品確認日！と決める。
- 昨今の在宅ワークの流れにのせて在宅避難を勧める。
- 流行の曲にのせた在宅避難の歌をつくる。
- 実際の避難所となる体育館で避難体験訓練（1泊）を実施する。
- ハウスメーカーやリフォーム業者を通じて PR する。
- 避難所の定義に自宅を入れる。
- SNS や市の広報紙などで在宅避難を PR する。
- 防災グッズや在宅避難のマニュアルを作成し、年に一度各家に配布する。



7 今後の取組

意見は手法まで具体的に述べられているものについては、その一つ一つの本旨をとらえて抽象化のうえ一つの意見にまとめ、さらに構造化・グループ化します。実際に出された意見によっては、計画等に落とし込むことなく、比較的早い時期に実施することが可能なものもあるため、その取扱いについて、4つの分類に（①実施②次期総合計画に反映③実施の可否を検討④実現不可）に類型化し対応します。

8 参加者アンケート結果(抜粋・複数回答、カッコ内は人数)

地域デザイン会議に参加して良かったと感じる点

地域課題への気づきがあった(25)

自由な議論ができた(18)

区や地域に興味を持つきっかけになった(17)

自分の考えを伝えることができた(16)

地域の住民とのつながりを深めることができた(9)

地域デザイン会議の取組によって得られた成果

地域の課題や話し合いの結果を参加者間で共有することができた(27)

多くの区民と話し合い、意見をまとめることができた(21)

幅広い世代の人と話し合うことができた(16)

地域の住民とのつながりを深めることができた(10)

9 その他

会議後に、本庁舎 25 階の展望フロアに希望者をご案内しました。